



# つばさっ子

## 2014年 2月号



### 今月の行事



3日(月)	10:00~	節分(オニ来ます)
9日(日)	10:00~12:00	くまとり子育てと保育の集い(つばさ)
14日(金)	18:30~20:30	ぞうグループ懇談会
15日(土)	9:00~11:00	ぞうグループ懇談会
21日(金)	18:30~20:30	ぱんだ懇談会
22日(土)	9:00~11:00	うさぎ懇談会

今月の全体職員会議は、2月28日(金)です。18:30までのお迎えのご協力をお願いします。

### 3/31(月)建て替え準備のため 家庭保育協力のお願い

姉妹園アトム共同保育園の建物での保育は3月末までとなり、4/1からはいよいよ建物の撤去と異動先での保育が始まります。少しでも多くの職員が準備に取り掛かり、4/1を迎えられるよう、家庭保育の協力をお願いします。3月に改めてお願いのお知らせと出欠確認をさせていただきます。

### 確定申告書・町民税申告書 提出期限 2/28

保育所継続申請の提出書類です。該当の方は忘れないよう提出して下さい。署名欄に必ず署名し、貼り付けてから提出して下さい。

確定申告書や住民税申告書で税額報告書を提出する予定の方は、期日までに提出してください。※確定申告書は1枚目と2枚目(コピー可)が必要です。

### もちつき

1/30

アトムときりんぐみの  
平元さんから杵や臼を  
貸してもらいました。



## 伝えたいこと パート2

市原悟子

つばさっ子の原稿も残り2回です。1月号は、何もないところから一つひとつ作った最初の10年を紹介しました。今回は作ったことの内容を充実させることに力を入れた10年を紹介します。このように書くといかにも計画的に行ったように思われますが、目の前の問題に取り組んだ日々の積み重ねで振り返れば結果的にそうだったということです。

運営に関する全てを保護者と職員とで行っていた当時、環境整備と保育内容充実は大きな課題でした。無認可の保育所の為、国からの補助金はなく熊取町から少額の補助金のみ、運営費は少額の補助金と保育料のみです。アトム保育料は同一保育料、公立と比較すると公立保育所の最高額より2万ほど高い保育料でした。それでも当然運営費は足りません。運営費を捻出するために、年2回のバザー、物品販売（パン、栗、ヨーグルト、果物、野菜、惣菜）等、節分のこの時期には、少しでも利益がでるようにお米など食材のカンパを呼び掛け、保育所では手狭で作業できないので保護者の家を借りて、部屋中酢飯の匂いが充満する中、巻きずし作り（300本）をしたのを思い出します。



当時のバザーの様子

このように地道な努力でこつこつ、貯金をし施設改修（750万）などの資金に充てたのです。高い保育料を払いその上これらの活動をしなければならぬので不満を持つ保護者も当然でしたが多くの保護者は自分たちで子どもたちの環境を整えることに夢、ロマンを感じていたようです。もう一つの課題、保育内容充実の為に『保育内容検討委員会』『保母資質向上会』を立ち上げ、子どもにとって必要な体験は何か？させてはいけない体験は何か？を議論して保育方針を作りました。当時、早期教育、学級崩壊、青少年の殺人事件、学校でのイジメ、人間関係苦手な青年の問題などが連日報道され、就学前教育が大切だと言われていた頃です。アトムの保育は各方面から注目されテレビ、雑誌、新聞に取り上げられるようになりました。実践記録の冊子、出版社からも数冊出版されました。アトムへの見学、そして講演依頼は沖縄から北海道まで週に1回ほどどこかに出かける日々が数年続きました。講演先で出会った人たちとは現在も交流があります。

アトムが認知され認可保育所作りが本格的になると、物品販売やバザーよりも収益があがるのでコンサートを企画したらどうかと提案してくれる外部の方もいて、【ゴスペルコンサート・京都フィルコンサート・ピアノコンサート・バイオリンコンサート】など取り組みました。「園庭の遊具に間伐材を使ってはどうですか」と竜神の林業家が声をかけてくれ、保護者と共にトラックで竜神まで行き、園庭に丸太小屋、滑り台、アスレチック遊具なども作りました。保護者以外の方たちの支援もたくさんいただきました。認可の際には全国からカンパ金が350万ほど集まりました。



保護者と保育士共同で作った滑り台

長い無認可アトム共同保育所が認可アトム共同保育園となりつばさ共同保育園が2園目として誕生、そしてアトム共同保育園が老朽化の為4月以降建て替えとなります。ここまでの道のりに多くの支援者がいて、現在があるということをお伝えしたかったパート2でした。これはその当時書いた子どもの特徴に関する原稿です。

## こだわり、だだこね、へそまがりの2歳児

「イヤイヤ」の時期がやっと終わったかと思うと、「ジブンデ！！」となんでも自分でやりたがり、できなかつたら、ヒステリーを起こしたり、パニックになって奇声をあげたりとまだまだ大人の忍耐は続きます。やりたくてもできない自分の力の無さに苛立ち、でも大人の手を借りるのはイヤ！子どもができない様子を見て助けてあげようと大人が手を出すと、「私ができないのはあんたが手出ししたから、あんたのせいで私はできなくなった」と言わんばかりに怒り出す。なんとも素直でない。可愛くない子どもの様子に「誰に似たのだろうか？」と頭をかしげるお母さんが多いのですが、この時期の子どもによく見かける姿です。2歳児で特に大変だなあと思うのは、

①何事にもこだわりがあることです。物、場所、衣服等。例えば「コップはこれでないダメ！」「座る場所はここ！」「この服でないイヤ！」同じ柄のコップだからこれにしてと言っても聞き入れない。誰かが先にその場所に座っていても強引に退けて自分が座ろうとする。服も夏冬季節関係ない、前日着て汚れているのに平気。自分の思いがはっきりしてきたので、それを全面的に出して通そうとします。

それが通らなければ、怒り、泣き叫びの行動になるのですが、1歳児とははっきり違うところがあります。2歳児になるとプライドらしきものもでてくるようで、そのプライドを無視しないで対応することが大事だと思います。その対応のコツは、ダメをはっきり示した後、「これはダメ！だけどこれはいいよ。これかあれかどっちにする？」と2つのことから選択させる言い方をし、子どもに決めさせる事です。悩みながらも自分で決めたら満足し、納得できると何事も無かったように機嫌よく、気持ちを立て直せるし、次同じ場面に出くわしたとき、教訓として生かされるようになっていきます。

②納得するまでだだこねをすることです。

自分で納得できたらスムーズにことは運ぶのですが、納得できるまでにはだだこねが続きます。どこまで泣けば、大人は自分の言うとおりになるか、泣き叫びながらもしっかり大人の反応を観察しています。その観察力は鋭いですよ。

この人は聞いてくれる人、この人は泣いても聞いてくれない人としっかり見極めて泣きますからね。大人を見ながらだだこねする姿は生きていくたくましさを感じます。しつこく泣く姿は大人の言うとおりにしたくない！気持ちがいっぱいあって、自分で決めたいとの思いも強く、大人が強制すればするほど、だだこねは長引くと思います。

泣くだけ泣いて、泣いていてもどうしようもないことが分かったら、次どうしようかと考えられるのです。次を考えられるのが、1歳児と違うところです。

気持ちの建て直しまでの時間が相当かかる子どもと、早い時間で切り替えられる子どもとでは大人のイライラ度は随分違いますね。我が子はどれくらい時間がかかるのか、見てください。その時間がわかると、大人の覚悟も決められると思います。

③へそまがりのところです。

機嫌よく遊んでいるかと思うと、何かのきっかけでおこりだしたり、気持ちが沈み込んだようにブスッと不機嫌になる。機嫌を取ってあげようと、やさしくしてもそっぽを向いて無視したり。「もう知らんよ勝手にして」と大人がプツンきてしまうこともしばしばだと思います。

自分の要求を素直に言わないのもこの年齢で多いですね。食べたいのに「食べたくない」遊びたいのに「遊びたくない」と言う。子どもの様子を見ていたらあきらかにしたそうなのに「違う」と言葉では言うので大人はなかなか分かりにくいのですが、こんなやりにくい行動もこの年齢の特徴と思って下さい。つい「我が子だけがこんなに変？」「他の子どもはとても素直なのに、なんで？」思いがちですが、他の子は良く見えるものなのです。

①②③もいつのまにか目立たなくなってきますので、大人は気持ちを切り替えながら、親同士でやりにくさを自慢しあうぐらいで乗り切ってください。

## 自分と友達の思いの違いに揺れる3歳児

「イヤイヤ」「ジブンデ」のただこねや、こだわりの2歳児期が終わり、自分以外の他人のことも考えられるのが3歳児期です。言葉でのやりとり、我慢する事、次の見通しももてるようになるので、ずいぶんやりやすくなりますが・・・別のやりにくさもでてきます。

以下は3歳児の子どもの心の動きです。大人の予想とは随分違うと思うので参考にしてください。

### ① 簡単にあいさつなんてできません。

「おはよう」と声を掛けられても子どもは恥ずかしがり、お母さんの後ろに隠れたり、話しかけられても無視する素振りをしたり、とても素っ気無い態度をとります。そんな時お母さんは「なんであいさつしないの!!」と注意するのですが余計に意固地になって口を閉ざしてしまいます。心の中ではあいさつしたいのです。でも恥ずかしい。あいさつしたい気持ちと恥ずかしい気持ちがぶつかり合って、どうして良いかわからなくなるようです。ぐずぐず思っているうちに通り過ぎてしまい、その人がいなくなってやっと「おはよう」と口にする、するとお母さんは「なんで言わなかったの」と怒る。子どもの心の声は『おはようって言いたいけど恥ずかしい。お母さんは恥ずかしくないかもしれないけど私はとっても恥ずかしい。恥ずかしいから言えないの。いなくなったからおはよう言えたのに・・・』

この時期子どもはあいさつひとつにもどうするか決めるのに時間がかかるのです。

### ② 簡単におもちゃは貸せません。(友達が家に遊びに来た場合)

自分のおもちゃを勝手に触っている。私の許可なく、勝手に触らないで、あれもこれも全部私の物。あなたの物ではありません。私に「貸して」と聞いて欲しいのに、それも言わないで、なのにお母さんは「いじわるしないで貸してあげなさい。あんたがそんなにされたいやでしょう。自分がされて嫌な事は友達にしたらダメよ」と一方的に注意する。『私はいつもお母さんから言われている事「黙ってお友達のおもちゃ取ったらダメよ。貸してって言うのよ」をお友達にも言ってるだけなのに。お友達の家に行った時もお友達は私におもちゃを貸してくれなかったのに・・・どうして私は注意ばかりされるのかなあ？

私は意地悪なんかしていない!私に「貸して」って言って欲しかっただけなのに!』

### ③ 大人のしている事を私もできます。でも最後までではできません。

大人のしている事はなんか楽しそう。台所の作業は魅力的。食器洗い、野菜洗いは水を流しておもしろそう。包丁は音と一緒に小さく切れるのなんでかなあ?掃除機はなんでも吸い込んでいるのがおもしろい。洗濯物を干すのも大好き。大人のしている事みんなしてみたい!!あれもこれも。子どもは大人のしている事をやりたがります。大人と同じことをすることで自分も大人になった気分、偉くなった気分になるようです。ままごと遊びとは全然違う本物を体験したいという気持ちが大きくなるようです。「お手伝いする」と頑張るのですが、一つの事を最後までやり遂げる事は無理で、お母さんがやっている事に次々目移りして全て中途半端、戦力には考えないで下さい。大人のしている事をしたいだけです・・・。言葉遣いも大人と全く同じ言葉を使って大人になった気分になるようです。(気分といえば随分気分にもムラがあるのもこの時期です)

他にもこんな特徴があります。

「なんで?」「どうして?」となんでも聞きたがりやの時期です。



知らない事ばかりなので、どんどん質問してきます。それに一つひとつ答えていけば際限なく質問攻め、答えられないことに「わからない」と答えれば「どうしてわからないの?」と又質問『うちの子天才』と思ったり『もううるさい』と思ったり一喜一憂だと思います。しかしこの質問攻めも一時期のことなのです。全てに答えようとしなくても「なんでかなあ」と一緒に考えても良いと思います。会話を楽しめたら良いですね。本当のようなウソもつきます。

おやつを隠れて食べたり、うがいや歯磨き、手洗いをやってないのに「やったよ」と平気な顔でウソをつき、それを見破られて叱られると意固地になって「やったもん」とウソをつきとおすのです。子どもがウソをつくときあまりにも平然としているので、大人はその堂々とした口ぶりにこんな小さい時から平気でウソをつくとはとてもショックを感じるのですが子どもにしたら見破られるはず無いと本気で思っているのです。ましてや「うそでした」なんて簡単には認められないし、思い替える事ができないのです。

2歳児よりかは随分しっかりしてきたと実感できる3歳児だけれど、まだまだ言葉だけが達者で言う事とやる事は全然別です。人のやっている事はすぐ言いつけに来るのですが、その後同じことをやっている。「人の振り見て我が振りなおせない3歳児」

自分の苦手な事、失敗しそうな事には手出しできなくなるのもこの時期ですが、友達の励ましや、声掛けでやってみようとチャレンジできるのもこの時期です。大人よりも友達の影響が大きいので大いにお友達の力を借りたらいいと思います。

1/30 (木) アトムとつばさで最終の合同職員会議を行いました。



この間の延長保育はアトムの岩木園長が行いました。



お母さんたちと接して感じるのは「自分がどう見られているか」をとても気にしていることです。それが、子育てを余計にしんどくしている。また、「子育てがしんどい」と言うのと、「あなたは、なっていない」と言われるのでは、と不安になっている。

どの親も同じような悩みを抱えているのに、うち明けられず、他人は競争相手。「あの人も一緒なんだ」と感じられる、そんな場が必要です。

子どもに何か問題が起きると、「しつけがなっていない」と、親に批判が集まりますが、そんなことはない。友達にかみつきたい子、ひっかきたい子。自分本位で、うそだつてつきます。これは子どもの自然な姿です。ただし、自分本位のままでないよう仕向けていくのは、親を含めた周囲の大人の責任です。

子どもをめぐる親同士のもめごとが起こった時、アトム共同保育所ではクラス懇談会で話題にします。「AさんとBさんがもめているけれど、あなたならどうしますか」と。親同士が互いの考え方を知ることが大事です。生の感情をぶつけ合って、人間同士のつきあいを築いてほしいんです。

祖父母懇談会もあります。60歳代

## 「他人の出番」ある環境を 「人間同士のつきあい築いて」

から上の世代には「私たちは子育てをしんどいとは思わなかった」という意識が強い。けれど、核家族化が進むなど、昔の環境との違いを理解してもらえば「うちの嫁だけじゃないんだ」ということになる。

子どもが小学校、中学校に行ってもいろいろな問題が起きてくる。その時、本当に助け合える関係があるかどうかで解決に違いが出てきます。保育所時代に家族同士が深くつながっていれば、子どもは「あの人に飛び込んだら助けてもらえるんじゃないか」と思える。親の言うことは聞かなくても、よその親が言えば聞くことだつてあるんですよ。

保育所は子どもが育つ場だけでなく、親や保育士の共同学習の場でもあるんです。親が子どもを冷静に見



いちばら よしこ  
市原 悟子 (48)

アトム共同保育所所長代理

保育士、和歌山大学教育学部講師。「心の子育てインターネット関西」運営委員。著書に「大人が育つ保育園」など。

よみうり子育て応援団

●子どもに何か問題が起きると、「しつけがなっていない」と親に批判が集まりますが、そんなことはない。

子育て応援団 17